



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

慶讃テーマ



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

宗祖親鸞聖人 御誕生八百五十年・ 立教開宗八百年慶讃法要

第1期法要

2023年3月25日(土)～4月 8日(土)

第2期法要

2023年4月15日(土)～4月29日(土)

讃仰期間

2023年4月 9日(日)～4月14日(金)

発行：真宗大谷派(東本願寺)

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年
慶讃事業本部事務室

TEL:075-371-9220 FAX:075-371-9218

宗派ホームページ 真宗大谷派 検索

<http://www.higashihonganji.or.jp>



しゅう そ しん らん しょう にん

宗祖親鸞聖人の生涯について

親鸞聖人は、1173年に京都で生まれました。

9歳の時に出家され、比叡山で修行にはげられました。

20年間も修行を続けましたが、人として生まれた喜びや意味を見つけることができないまま、比叡山を下りられました。その後、法然上人との出会いによって、人として生きる道、お念仏申して生きる仏さまの道を問いたずねられました。

それから、親鸞聖人は、1262年11月28日、90歳で亡くなられるまで、『教行信証』や和讃などをお書きになられ、たくさんの人々に、お念仏の教えを伝えられました。

そして、今ここにいる私たちまで伝えられているのです。





南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

人は、この世に生まれて生きて、納得できる人生であることを願う。けれども、本当の生まれた意味や生きがいとは、自分がどのようなものとして生きているのかを知ることなく、また、自分の心の闇について考えることなしに得られるものではない。

人は、躓^{つまず}き壁に突き当たって生まれた意味や生きる意味を考える。だが「人と」生まれたことの意味を考えるであろうか。「人として」生まれたことが、どれほど大切な意味をもっているのかを人間自身から考えることはできないのである。

人は生活の中で、生きがいを求めて、心を満たすものを外へ外へと追い求める。そのとき、自分に仏さまから願いがかけられていることには気づかない。

このことは、親鸞聖人が比叡山を下りられたこと、法然上人と出会われたことと、無関係ではない。

悲しみや苦しみの連続であっても、そのことが人生を決定づけるものではない。仏の本願に出遇^あうことで、この世に誕生した意味に目覚め、人生をいただくことが始まる。私たち一人ひとりの誕生の意味を、親鸞聖人の御誕生から考えることである。

